

# 2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

一般社団法人 ヤマネ・いきもの研究所

2022年4月1日から2023年3月31日にかけて当研究所で、実施した活動を以下に報告する。

## 1. 事業実施の方針（2019年度からの継続）

- (1) ヤマネを総合的に研究し、その成果を基に保全・教育を行い、地球社会を支える人材を育成する
- (2) いきものの不思議を研究し、その成果を基に保全し、いきもの・自然・人を愛する人々を育成する
- (3) 研究成果・活動成果を社会に発信する
- (4) ヤマネ・いきものを通して、市民・企業・研究者・大学・学校・行政等と連携することで、人々が地球社会保全に参画することを促す
- (5) 生物多様性保全・持続可能な地球社会達成に貢献する

## 2. 研究員について

### (1) メンバー

小林美博（やまなし野鳥の会事務局長）

中山孝志（公財 キープ協会）

村山真奈美（旧姓 岩渕）

布目三夫（岡山理科大学）

早川篤（天王寺動物園）

大河内友翔（檀原市立畝傍南小学校）

河野真之（大阪市立粉浜小学校）

古曾尾胡桃

### (2) 活動内容

生き物関連調査と研究活動、教育実践と教育研究、SDGsに関わる活動をDWIと協働で実施。

研究成果については、共有する。

### 3. 研究活動（受託調査以外）

ヤマネの研究及び山梨県北杜市周辺の生物調査と野鳥調査など計 11 実施した（表 1）。

表 1. 2022 年度に実施した研究活動

業務名	日付(期間)	実施場所	概要	備考
1 ヤマネ基礎調査	2022年4月～ 2023年3月	山梨県北杜市 清里	ヤマネの生態調査を実施。2家族、計7頭のヤマネを捕獲した。そのうちの捕獲した1頭に発信機を装着し、行動範囲、休息場所、冬眠場所について調査を実施。本個体については、現在も調査を継続中。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
2 ヤマネ基礎調査	2022年4月～ 2023年10月31日	山梨県 富士スバルライン	富士スバルラインのアニマルバスウェイを架設地選定のためのヤマネ調査用巣箱架設。2022年度分の調査報告書を山梨県道路公社へ提出し、2023年度には受託調査として調査を実施中。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
3 ヤマネ基礎調査	2022年4月～9月	山梨県北杜市 小淵沢	南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るための調査。本調査地はApWA設置候補地としても考慮。ヤマネの確認はなし。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
4 ヤマネ基礎調査	2022年4月～ 2023年3月	和歌山県 串本町 古座川町	和歌山県では高速道路開発により森林の伐採が行われている。開発と保護の両輪を図るため、ヤマネの基礎調査を行う。串本町は、海岸に近い地域で調査を行い。古座川町は、山林地域での調査を行う。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
5 ヤマネ基礎調査	2022年 12月5日～8日	島根県 隠岐の島町 (島後)	・島後は、通常の巣箱調査と新規巣箱設置を実施。 ・島前は、巣箱設置。 両地点共に、現地団体と共に実施。	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
6 環境DNAを用いたヤマネの生態調査	通年		ヤマネの糞を福山大学の佐藤准教授に送付し、分析を依頼。ヤマネが森林内で何を餌資源としているかを調査。 共同研究者: 佐藤淳氏(福山大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
7 ニホンヤマネの分類学的研究	通年		毛色からニホンヤマネの地理的違いを見る研究。 共同研究者: 布目三夫氏(岡山理科大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
8 ニホンヤマネのゲノム解析の研究	通年		ヤマネのゲノムの基本型を確認する研究。 2022年7月の死亡個体から品質の良いデータが得られたため、今後遺伝子の解析がさらに進む予定 共同研究者: 木下豪太氏(静岡遺伝研究センター) 安田俊平氏(東京都医学総合研究所) 布目三夫氏(岡山理科大学)	ニホンヤマネ保護研究グループの助成金も利用
9 里山の生き物調査	通年	山梨県北杜市 下黒沢	研究所周辺に生息する生物種、特に田んぼ周辺の水路に生息する昆虫について調査。報告書作成中。 調査は、各月実施。 共同研究者: 中山孝志氏	
10 鳥調査	通年	山梨県北杜市 下黒沢	研究所周辺に生息する鳥類について調査。報告書作成中。 調査は、各月実施。 共同研究者: 小林美博氏	
11 DOMINO (生き物教育法ワークショップ)	通年	オンライン	いきものに関する教育法の開発・研究を実施。 共同実施者: 加藤朱莉氏(関西学院大学大学院生)	

#### (1) 山梨県北杜市のヤマネ調査

八ヶ岳山麓に2つの調査地（調査地 G、調査地 Y）を設けた。調査地 G には、巣箱 60 個、調査地 Y には、巣箱を 51 個架設した。調査地 G は 2021 年 4 月から 11 月まで毎月 1 回巣箱内部を調べた。捕獲したヤマネは体重、性、成獣か亜成獣かを調べた。ヤマネの食物を調べるため糞から DNA 分析を行うため、巣箱内部の糞を調べ、採集し、また、体重測定時に脱糞した場合、採取した。糞は、福山大学の佐藤淳博士に送付し、分析した。

### 【巣箱調査】

2022年4月から9月まで、毎月1回、巣箱内の利用状況を定期的に調査した。巣箱内にてヤマネを確認した場合は一時的に捕獲をし、体重・性・繁殖状況等を記録した後、マーキングをした。調査地Yでは、大雨のため調査地に向かう道路崩落のため、継続調査を断念した。

ヤマネはG地区では、2つの繁殖事例を確認した。7月26日に雌が3頭の仔を出産しているのを確認した。仔の体重は6.9g、7.1g、6.6gであった。出産は7月初旬から中旬と推定された。

9月30日に親子を確認した。ヒメネズミが造った枯葉の巣を用いていた。母獣は22.0g、仔は13.0gと15.4gで生後25～26日と推定された。(図1、図2)この結果、ヤマネの出産期は9月初旬のデータを得ることとなった。これらから、八ヶ岳山麓のヤマネの出産期は、7月初旬から9月初旬までは継続することが示された。調査地Yでは、大雨のため調査地に向かう道路崩落のため、継続調査を断念した。



図1. 枯葉の巣のヤマネ親子



図2. 仔を守ろうとする母獣

### 【発信機調査】

上記で保護した成獣雌に発信機を付けて約2ヶ月～3ヶ月追跡してきた。2頭とも発見場所から60～80mの距離にいた。高さ7mほどの朽ち木の中(図3、図4)や倒れて朽ちた樹の中にもぐりこんでいた。



図3. 高さ7mほどの朽ちた幹にいる



図4. 大きな朽ちた幹の中にいる

そのうちの親子で発見した母獣は冬眠期間も定位を継続したところ、岩の上にヤマブドウの樹皮で冬眠巣を造り、その中で冬眠していた。岩の上での冬眠は、下北半島でも観察事例があるが、極めて、珍しい事例である（図5、図6）。



図5. 岩の上での冬眠場所



図6. ヤマブドウ樹皮の冬眠巣のヤマネ

また、別の個体の冬眠場所も追跡した。川沿いの朽ち木の内部で冬眠していた（図7、図8）。これらは、ニホンヤマネは、森で冬眠場所としても活動期も朽ち木を利用することを示した。今後の森林管理でのヤマネ保護には、朽ち木を重視する必要があることが示された。



図7. 川沿いの朽ち木で冬眠



図8. 高い朽ちた部分の中で冬眠中

## (2) 山梨県富士スバルラインにおけるヤマネ調査（図9、10）

森を分断して約50年となる富士山スバルラインは、ヒメネズミに遺伝的影響を与えることを私たちは確認している。そこで、分断によるヤマネへの遺伝的影響を探るため、スバルラインの3地点に両側に巣箱を10ずつ計60個架設、巣箱調査を行った。ヤマネの巣を7月に8個、10月に4個の計12個を確認した。ヤマネ本体を9月に2頭、10月に2頭の計4頭を確認した（表2）。ヤマネは、目視で確認した。



図 9. 巣箱調査



図 10. ヤマネによる蘚苔類の巣

表 2 富士スバルラインで確認した巣のみの数とヤマネ本体の数（月別）

	7月	9月	10月	計
巣のみ	8	0	4	12
ヤマネ本体と巣	0	2	2	4

富士スバルライン沿いには、ヤマネが生息し、さらに、道の両側に生息していることが示されたが、スバルラインにより生息域の分断がされているため、アニマルパスウェイなどのキャノピーブリッジによる対策が必要と考えられる。

巣材ではほとんど蘚苔類、樹皮を用いていた。ヤマネが用いた蘚苔類の同定を専門家の土永浩史氏に依頼した。その結果、イワイトゴケ、ヒメコクサゴケ、ナガスジイトゴケ、コバノエゾシノブゴケ、イトハイゴケ、ラッコゴケ属の1種、イボヤマトイタチゴケ、カラフトツヤゴケ、ケシゲリゴケ、オカムラゴケ、チャボスズゴケ、ハネヒラゴケ、サヤゴケなどが確認された。中でも主構成種のイワイトゴケは、糸状の形態をもつシノブゴケ科の種で、樹幹に着生し生育している。ヒメコクサゴケは随伴種とみられる。また、ナガスジイトゴケの糸状の形態が巣を形成、ヤマネにとっての保温効果に適した巣材であると考えられる。コバノエゾシノブゴケやイトハイゴケは随伴種とみられる。

### (3) 山梨県小淵沢町でのヤマネ調査

南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るため、巣箱 30 個設置した。ヤマネの本体、痕跡の確認はなかった。

### (4) 和歌山県串本町・古座川町での調査でのヤマネ調査

#### 【串本町和深調査】

和歌山県では、国交省が高速道路において森を伐採しながら工事を展開している。そこで開発とヤマネ保護の両輪を図るため環境 DNA を用いて和歌山県串本町で行った。和深においては、ヤマネの糞が枝上や設置して自動カメラ上でも確認された（図 11、12、13）。高速道路開発は急ピッチで進んでいるためさらなる研究が急務である。



図 11. 枝上の糞



図 12. 葉上の糞



図 13. 自動カメラ上の糞

【古座川町猿川谷調査】

古座川町の猿川地域は山林地域である。本地区には、2022年11月7日に巣箱を15個架設しヤマネの生息確認を始めた（図14、図15）。そして、2023年1月19日



図 14. 巣箱の新設状況



図 15. 巣箱の新設状況

には溪流沿いの森（図16）でヤマネの巣材を確認した（図17）。これは和歌山南部では、11月初旬から1月初旬に冬季でもヤマネは冬眠しないことを示している。三重県尾鷲での発信機調査でも12月から1月にヤマネは移動したので、紀伊半島南部では冬季に冬眠しない個体もいることが明確となった。継続調査を実施する。



図 16. 巣材発見場所環境



図 17. ヤマネの巣材

(5) 島根県隠岐の島町のヤマネ調査

島根県隠岐の島町の島後では、島内でのヤマネ分布と生活史を調べることを目的で巣箱調査を展開してきた。2021年度ではこれまで巣箱を架設していた仏谷、中谷に加え近石地区でヤマネの巣材が確認されたためヤマネの分布が確認された。2022年度は、島後の最北の伊後地区でもヤマネの生息を確認できなかった。

## (6) 環境 DNA を用いたヤマネの生態研究

天然記念物であるニホンヤマネ (*Glirulus japonicus*) の食性を非侵襲的に解明する手法を確立するとともに、森林生態系におけるヤマネの生態学的な役割を明らかにすることを目的とし、山梨県・和歌山県・島根県隠岐の巣箱調査で採取した糞を福山大学 佐藤淳教授に依頼し、分析した。

結果は、特に 2021 年秋のサンプルからアブラムシ類が多く検出されており、秋にアブラムシを食べるというヤマネのこれまでの食性の知見と一致した。追加的に取得した鳥取と隠岐のサンプルを分

析した。その結果、鳥取のサンプルではアブラムシ類、隠岐のサンプルではハエ類が多く検出された。秋にアブラムシを食べることは、山梨県のデータ結果と一致している。また、隠岐で見られた冬季のタマバエは、以降に示す秋に実り冬まで残ったヒサカキの果実とともに食べた可能性がある。

山梨のサンプルからの結果では、無脊椎動物では、夏に蛾を多く食べ、秋にはアブラムシを食べることが分かった。植物では、秋にサルナシが集中的に食べられていることがわかった。

本件について、今年度、昨年までの山梨県と隠岐のサンプルを対象に得た食性分析結果を論文としてまとめて、2023 年 1 月 17 日 (火) に日本哺乳類学会英文誌 *Mammal Study* に投稿した。

Sato JJ, Matsuda H, Fujita H, Yasuda K, Aiba H, Minato S. (2023) A noninvasive genetic method for species identification and dietary profiling of the Japanese dormouse *Glirulus japonicus* from fecal samples. *Mammal Study* (投稿中)

## (7) 分類研究

本研究は、岡山理科大学布目講師との共同研究である。日本各地でヤマネの毛色や目の隈取り模様の大きさといった外観、食性や繁殖時期、冬眠特性等が地域ごとに違うことが示唆されつつある。

2023 年 3 月には、生存個体での画像撮影も試みた (図 18)。今後、調査の過程で発見された生存個体からも色のサンプルを採取していくことができるようにするためである。

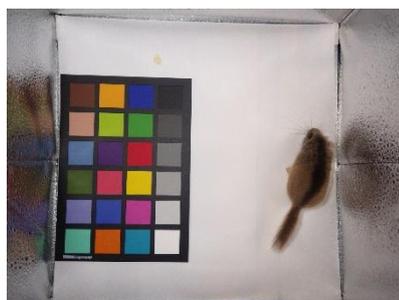


図 18. 生存個体でのヤマネの撮影

これら方法を用いて2023年度では山梨県と長野県を中心に、奈良県、和歌山県、鳥取県、隠岐島、など保存状態の良い冷凍標本60個体について、色の地域差、個体差を明らかにするとともに、これらの標本のゲノムワイドな多型解析を実施し、遺伝的な地域グループとの関連を調べる。また、色の地域差とともに、外部形態からの分類方法についても検討を行い(図19)、今回は耳介の撮影方法を再検討した(図20)。撮影角度や計測の手法には検討の余地があるため、今後、手法開発していく。



図19. 個体に触れての計測試行



図20. 個体に触らない計測試行

#### (8) ニホンヤマネのゲノム解析の研究

本研究は、国立遺伝学研究所の木下豪博士、岡山理科大学の布目三夫博士などと共に展開している。ヤマネのゲノム解析研究の大きな目標は、ヤマネの進化の歴史を知ること、日本の多様な環境へ適応する分子メカニズムを知ること、及びそれらを踏まえた上での適切な遺伝的多様性の保全対策を考えることである。

2022年7月に民間のネズミ駆除作業による混獲で死亡した個体から品質の良いデータが得られたため、今後遺伝子の解析がさらに進む予定である。

#### (9) 里山の生き物調査(山梨県北杜市下黒沢) (図21、22)

北杜市高根町下黒沢で、2022年4月から2023年3月まで毎月1回、田んぼ周りの水路で水生生物の調査を実施した。

本調査において、計36種以上確認した。これらの中できれいな水を示す指標動物として、アブラハヤ、サワガニ、プラナリアなどが確認されたことから水路は生物多様性豊かな場できれいな水であることが示された。田んぼではガムシ、タイコウチなど日本で減少中の貴重種が確認された。

調査実施者：中山孝志 研究員、饗場葉留果 理事



図21. 調査風景



図22. トウヨシノボリ

(10) 鳥類調査（山梨県北杜市下黒沢）（図 23）

北杜市高根町下黒沢で、2022年4月から2023年3月まで、毎月1回、下黒沢周辺を中心に野鳥の調査を実施した。本調査において、計53種以上確認した。夏鳥ではカッコウ、キビタキの減少が示唆され、冬鳥ではシロハラの減少が顕著で、環境変動指標として鳥類調査の重要性が示された。

調査実施者：小林美博 研究員、饗場葉留果 理事



図 23. 調査風景

(11) いきもの教育法ワークショップ（DOMINO）

2020年から実施している関西学院大学の院生との教育法の勉強会である。湊代表理事が、関西学院大学の教員時代から実施している。生き物を以下に教えるかということに焦点をあて、オンラインでワークショップを実施してきた。2023年1月25日は、研究員を打診中の早川氏にも講演を実施していただいた。現在も継続中である。

#### 4. 受託調査事業

(1) 令和4年度 紀勢国道環境調査業務

委託期間：2022年4月～2023年3月

業務実施回数：不定期に年数回程実施。

委託費：6,598,075円（税込） 内、440,000円（税込）は年度明けに支払い

調査内容：

【ヤマネ現地調査】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地指導及び現地調査。

巣箱架設地の確認と架設指導。

【ヤマネ保全対策】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地調査、パスウェイ設計指導及び現地指導、新型アニマルパスウェイの架設に伴うモニタリングに関する指導と植栽に関する指導の実施。

アニマルパスウェイに関するメンテナンスと新アニマルパスウェイの設置などに関する業務の遂行。

アニマルパスウェイの業務に関しては、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会と共働で実施。

(2) 折橋墓地移転に伴う新墓地造成調査業務委託業務

委託期間：2022年4月～2023年3月

業務実施回数：毎月1回実施。その他、打ち合わせなど。3月末に最終報告書を提出済み。

委託費：8,800,000円(税込)

※ヤマネが捕獲されなかったため、8,162,000円ほどになる

※支払いは年度明け

調査内容：

三重県尾鷲市の折橋地区への墓地移転に伴う調査業務。巣箱を用いた調査、環境調査、発信機調査（ヤマネが捕獲された場合）を実施。

(3) 令和4年度 隠岐地域ヤマネ調査業務

委託期間：2022年11月～2023年3月

委託費：829,400円(税込)

調査内容：

西ノ島町内のヤマネに関する調査業務

(4) (一) 富士河口湖富士線 環境基礎調査業務委託

委託費：403,400円(税込)

調査内容：

富士スバルラインのヤマネに関する調査業務

## 5. 教育事業

(1) 生物多様性・いきもの・SDGs・ヤマネの教育活動（表3）（図24、25、26、27）

本年度の教育活動は計16回実施した。教育対象者は、小学生、高校生、企業人、NGO、山梨県行政担当者、研究者、市民などであった。オンラインと対面の両方で開催した。また、企業人対象の生物多様性教育セミナーは、経団連自然保護基金の助成を受け展開した（添付資料①）。

また、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会が作成をしているアニメーションに関する監修業務も行った。



図24. 甲陵高校 SSH 授業



図25. 山梨県道路公社・県行政者への勉強会



図 26. 経団連 2022 年度シンポジウム (NGO)      図 27. 市民への里山観察会

表 3. 2022 年度実施 教育活動一覧

	業務名	日付(期間)	実施場所	対象者	概要	備考
1	企業人のための環境セミナー 2022	2022年6月、7月、8月、 9月10月、11月 2023年1月、2月	北杜市内 東京 オンライン	企業人	企業人に向けての環境教育。全8回実施。	経団連自然保護基金の助成を受け実施
2	隠岐の島町立中条小学校講義	2022年7月4日	オンライン	小学5、6年生	2学期に向けて、湊の話と郊外活動としてのヤマネの調査に関する質問などを受け付けた。	
3	関東学院六浦小学校講演	2022年9月6日	北杜市内	小学6年生	ヤマネの基本から研究の話	
4	北杜市立甲陵高校 SSH授業	2022年11月24日、25日	北杜市内	高校1年生	文部科学省が推進している「スーパーサイエンスハイスクール」(SSH)の授業の一環。ヤマネの研究からアニマルパスウェイの活動について紹介。	
5	道路生態研究会講演	2022年12月10日	東京	道路生態研究会メンバー	ヤマネブリッジ・いきものトンネルからアニマルパスウェイまでの事例紹介	
6	アニマルパスウェイ勉強会	2023年2月2日	山梨県庁	山梨県道路公社、他	富士スバルラインへのキャノピーブリッジ建設に向けての勉強会実施。元、道路公社の山本氏、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会の岩本氏からも講演いただいた。	山梨県道路公社と実施
7	経団連助成NPO活動成果報告会	2023年2月13日	オンライン	経団連加盟企業	企業人のための環境セミナー2022についての活動報告	
8	経団連2022年度シンポジウム(NGO) 企業とNGO等との交流会	2023年3月9日	東京	企業とNGO	ポスターにて団体の活動紹介。大竹理事、吉田理事にもお手伝いいただいた。	
9	～里山の水路には何がいる？～ 水路の生き物を調べてみよう！	2023年3月21日	北杜市内	一般	通年で実施している水路を用いて、生き物調査を体験してもらう企画。小宮理事にもご家族と参加いただいた。	北杜市環境基金の助成を受け実施

(2) 論文発表などの活動 (表 4)

2022 年は、湊代表理事が Folia の Canopy Bridges Special Issue Submission に、ヤマネブリッジやアニマルパスウェイについて紹介する論文執筆し、2021 年に投稿した論文が掲載された。福山大学と共同研究をしている環境 DNA に関する論文が投稿中となっており、2023 年 7 月中には掲載される予定である。

表 4. 2022 年度実施 論文発表一覧

	タイトル	発表学会名・掲載誌名	発表・出版年月日	掲載ページ	発表・執筆者名	概要
1	Updated information on the Japanese Dormouse Research, Conversation and Education	International Dormouse Conference 2022	2022年5月10日		湊秋作,他	日本のヤマネ研究の最新の情報について紹介
2	自然の教育的役割 =泥・いきもの=たんぼのようちえん、たんぼの学校から	子どもと自然学会	2022年6月12日		湊秋作	これまで実践してきたたんぼでの教育活動について紹介
	Mitigating the effects of road construction on arboreal Japanese mammals: benefits for both wildlife and people	Folia Primatologica	2022年6月21日	1-8	湊秋作,他	日本のキャノピーブリッジに関する紹介
3	Noninvasive genetic methods for species identification and dietary profiling of the Japanese dormouse Glirulus japonicus from fecal samples. Mammal Study.	日本哺乳類学会 Mammal Study	投稿中		佐藤淳,他	糞中DNAの分析について。共同研究者の福山大学佐藤氏が執筆

## 6. 保護・保全活動

### (1) ヤマネ保護・保全の提案

#### 1：富士スバルラインへのアニマルパスウェイ設置の提案

2021年4月に山梨県長崎知事に対し富士スバルラインにアニマルパスウェイ建設とヤマネ調査の必要性を提案した。それ以後、スバルラインを管轄する山梨県道路公社とヤマネ保護についての協議を行ってきた。

2023年2月に山梨県の担当者向けにアニマルパスウェイ（Canopy Bridge）に関する勉強会を実施した。行政担当者が生物多様性の価値、ヤマネの価値、アニマルパスウェイの価値を理解するためである（図28）。参加者は、県の道路公社、整備課、自然共生課、教育委員会の行政担当者やNPOのメンバーなどが参加した。講師は、代表理事の湊、元山梨県の県土整備部職員でヤマネ・いきものトンネルとヤマネブリッジの設計者の山本修氏、元清水建設（株）のアニマルパスウェイの設計者の岩本和明氏であった。各講演タイトルは次の通りである。

- ・湊秋作『背景・国内外の動き・ヤマネ・基礎的調査の重要性』
- ・山本修氏『清里高原有料道路へのアニマルパスウェイ導入の経緯』（図29）
- ・岩本和明氏『アニマルパスウェイ開発と普及』（図30）



図28. 勉強会会場の様子



図29. 山本氏講演の様子



図30. 岩本氏講演の様子

山梨県道路公社道路部長の保坂和仁氏にもご挨拶いただいた。また、最後には、参加者同士で勉強会の内容に関する振り返りと意見交換を実施した。その中のコメントでは、保全に関する前向きな考えやそれらを用いた教育についての前向きなコメントが見られた。

## 2：国交省紀勢国道事務所へのミエノワアニマルパスウェイの修理作業

紀伊半島を周回する高速道路を国交省は山間に開発している。その山にヤマネが生息し、また、尾鷲地方は南海トラフによる津波の来襲があるため、高速道路は市民の避難場所、物資の道となる。そこで、私たちは、国交省にヤマネ調査、保護、SDGs 教育を提案しその結果、ロープやわっぱなど自然に還る素材で作成したミエノワアニマルパスウェイを建設した。しかし、尾鷲の多雨のためロープが切れたため、その改修作業を指導した。  
また、ミエノワアニマルパスウェイの下に植栽した樹木が成長するように指導を進めた。

## 3：環境省へのパブリックコメントの投稿

2023年2月に環境省が公募していたパブリックコメントに、日本各地の森にキャノピーブリッジを建設すること、環境省が管轄する国立公園・国定公園からキャノピーブリッジ・アニマルパスウェイを建設することについて投稿をした。

## 4：北杜市環境基本計画へのパブリックコメントの投稿

2023年2月に北杜市が公募していたパブリックコメントに里山環境を構成する田んぼ、田んぼ周りの水路、森（八ヶ岳山麓の標高の低い森や南アルプス）、川、ため池を調査する必要のあること、幼児から企業人・行政担当者への生物多様性教育＝いきもの教育が必要であることなどを投稿した。

### (2) ため池の生き物の保全活動:下黒沢地域のため池に関わる保全策の提案

2021年頃より、田んぼへ水を供給するためのため池の改修工事が行われていた。そのため池は農期が終わると水をすべて抜いてしまう。そこで、冬場に生き物たちが暮らすことができる浅い水場をため池に併設することを山梨県に意見書を添え提案した（添付②）。それを基に地元区長やため池を管理する関係者に趣旨を伝え、浅い水場として図30のような場所を併設下さった。



図29. 打合せの様子



図30. 対策後の様子

### (3) 受託業務での保全活動

前述の受託業務を行うことで、ヤマネの保全へつなげていく。

### (4) ヤマネの保護活動と助言

日本各地からヤマネ保護についての相談を受け、可能な限り対応した。長野県の別荘にて、とりもちのネズミ捕りで捕獲されたヤマネの保護をした。別荘主には、ネズミ捕りの設置をしないよう助言を行った。

## 7. 広報活動

### (1) HP の運用

管理は主に吉田理事が実施しており、定期的な更新ができています。現在、ヤマネについての問

合わせも増加傾向にあり、2022年5月に団体用の電話の契約を行った。

### (2) 団体用 Facebook の運用

広報などに利用を開始しているが更新頻度が低いため今後の更新方法について検討が必要である。

その他、Instagramなども用いた広報活動も検討中である。

## 8. メディア紹介 (表5)

2022年度は、計4のメディアに紹介をいただいた。

日本テレビの『King & Princeる。』にて、ヤマネや里山の生き物が紹介され、反響が見られた。

表5. 2022年度 メディア情報発信一覧

メディア分類	紹介メディア名 (番組名・掲載誌名)	タイトル	紹介日	内容
1 テレビ	日本テレビ 『King & Princeる。』	岸、生き物図鑑をつくる	2022年4月23日	ヤマネや里山に暮らす生き物について紹介
2 地元情報誌	ハケ岳ジャーナル	人「謎多いヤマネに夢中」	2022年8月16日	理事(養場)についての紹介
3 新聞	山梨日日新聞	月刊 morito mirai	2023年1月28日	SDGsで山梨日日新聞が特集を組んでおり、その1つとしてヤマネとアニマルパスウェイについて紹介
4 新聞	毎日新聞	北杜市で親子観察会 水路で生き物探し	2023年3月28日	3月に実施した親子対象の自然体験会の紹介

## 9. 寄付関係

### (1) 自動販売機

2020年より、北杜市役所への設置について湊代表理事が担当者へ相談中である。2022年5月に、ベンダー企業のサントリーの新担当者がDWIの事務所を訪れた。今だ、設置に至っていないため、引き続き、交渉を進めて行く。

### (2) 会員募集

現在、会員管理システム(MiiT+)について、吉田理事が設定している。また、会員管理については、アースウォッチに所属する塚本正美さんに補佐をしていただいている。

表6. 会員登録者数 (2023年7月24日現在)

会員種別	人数
賛助会員(個人) 【2口以上】	1
賛助会員(団体) 【2口以上】	1
ヤマネ・いきもの友の会	9
ヤマネ・いきもの友の会未満	4
総数	15

## 10. 添付資料

- (1) 企業人対象の生物多様性教育セミナー関係資料
- (2) 山梨県北杜市下黒沢にあるため池保全への意見書